

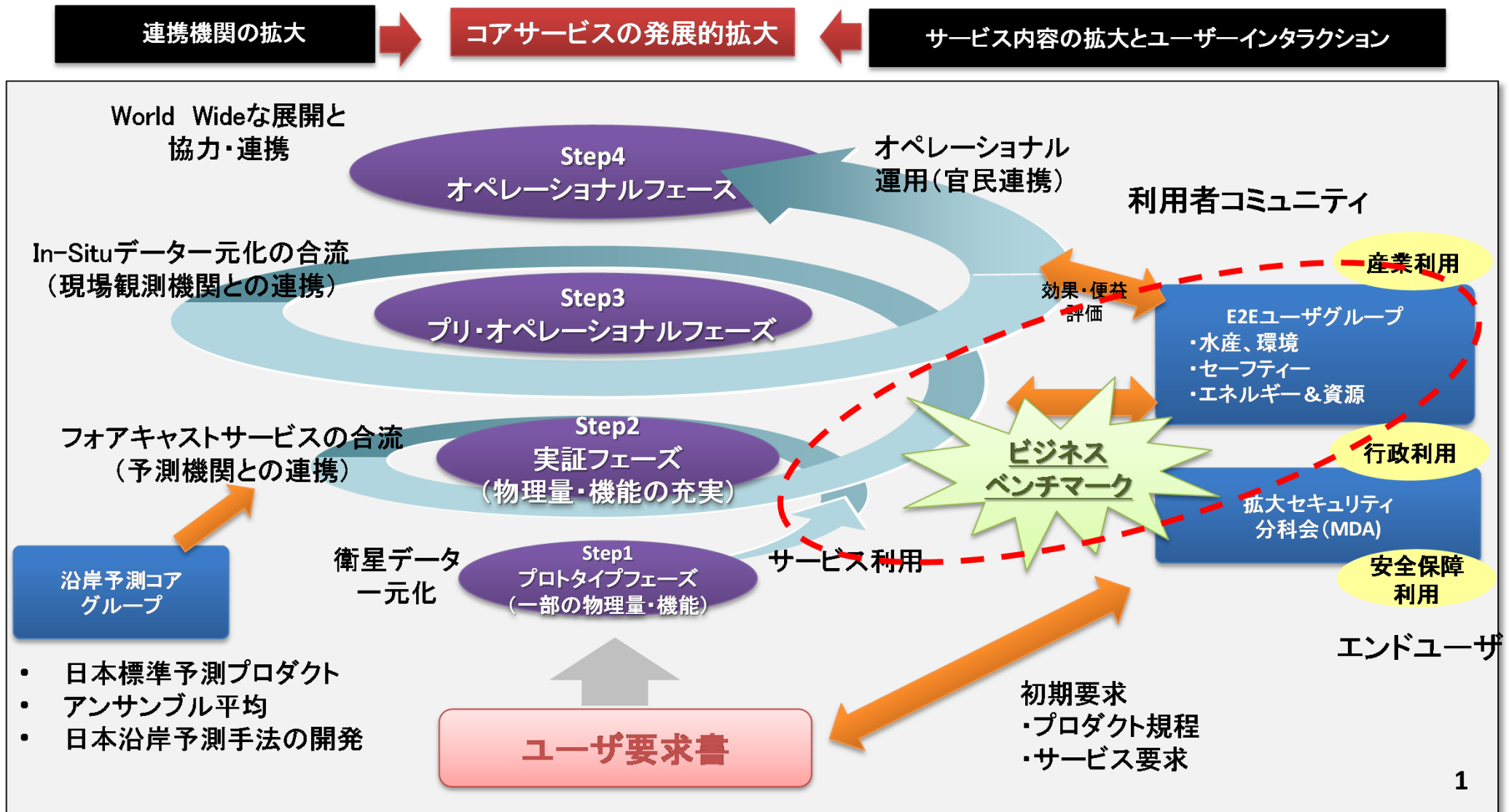
実証活動の考え方・進め方

平成26年度 海洋・宇宙連携委員会 End-to-Endユーザグループ
第2回検討会

平成26年11月13日

コアサービスの段階的な整備・構築の構想

衛星データの一元化を皮切りに、予測機関や現場観測機関、国外の海洋データ提供機関との連携を含めてコアサービスを段階的に整備・構築する構想において、付加価値提供者をはじめとする利用ユーザとのインタラクションを通じて**継続的に要件を吸い上げる**とともに、**ユーザのコアサービスの積極的な利用への移行を促す**ことを目的とした実証活動(ビジネスベンチマーク)を実施。



実証活動の考え方

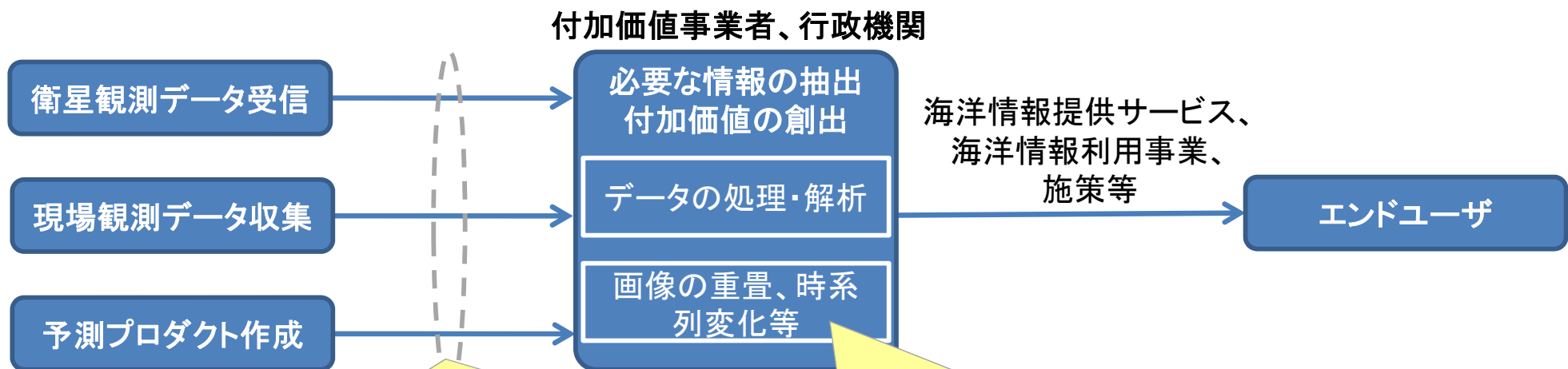
■ 実証活動の目的

海洋観測データ・情報を利用した事業、サービスを行う事業者や行政機関が、コアサービスを利用することによりメリットを受けるポイントを対象とした実証活動を行い、コアサービス利用の有効性を評価するとともに、事業、サービス等での利用に求められる詳細な要件を具体化する。

■ 実証活動で想定されるパートナー

- 付加価値事業者：衛星・現場観測データ等を利用して付加価値を創出し、情報提供サービス等の事業を実施
- 行政機関：衛星・現場観測データ等から抽出される情報を利用した業務、施策を実施

■ 現在の海洋観測データ・情報利用で想定される課題



② 複数の機関から必要なデータ等を取得するうえで、フォーマットやインターフェース、品質管理が一律でなく苦労しているのではないかな？

① 必要な情報の抽出や付加価値創出以外のデータ収集や加工のための作業が負担となっているのではないかな？

想定される課題に対するコアサービス利用の有効性と実証のポイント

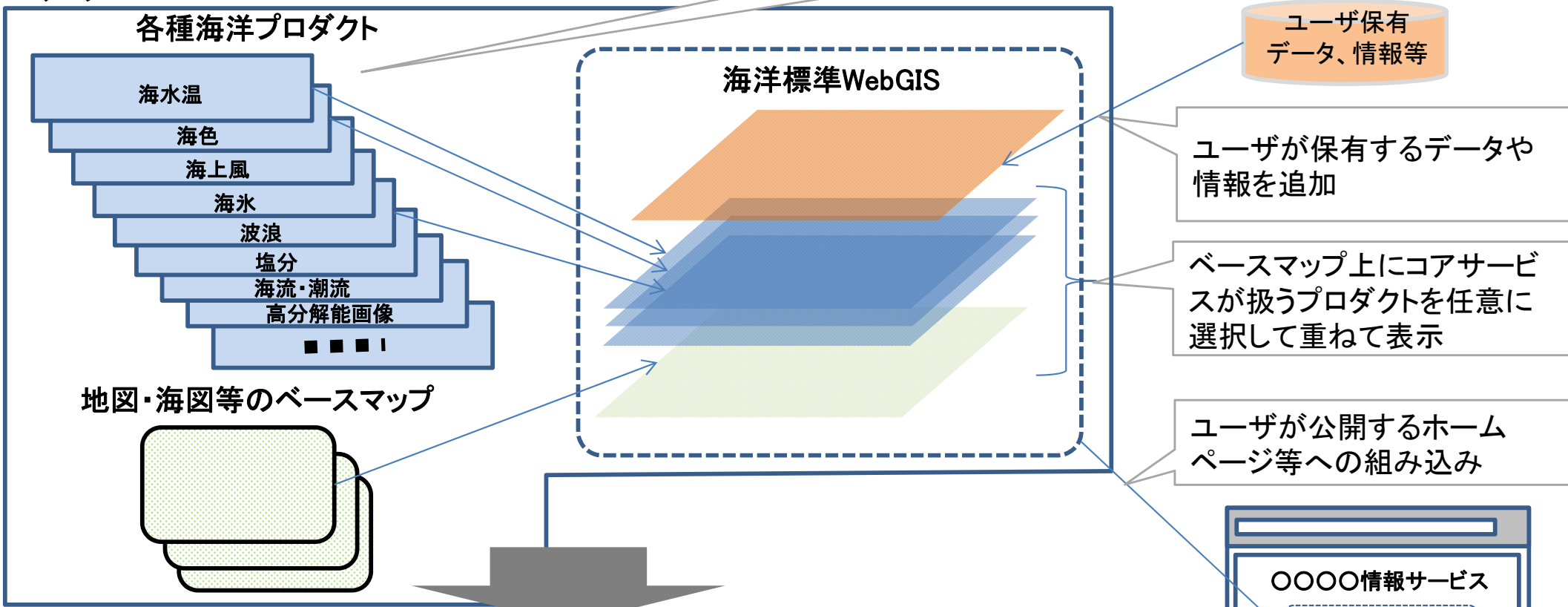
想定される課題	コアサービス利用の有効性	実証のポイント
① 必要な情報の抽出や付加価値創出以外のデータ収集や加工のための作業が負担となっているのではないか？	<ul style="list-style-type: none"> ■ コアサービスが提供するデータ(当面は衛星プロダクト)の閲覧、重畳、時系列表示等を行い、また利用者側で作成される付加価値情報等を重畳できるWebGISを整備 ■ 利用者側のアプリケーションやサービスに組み込むことが可能なAPIサービスも提供 	<ul style="list-style-type: none"> ■ APIサービスを含めた左記WebGIS機能の利用者側での事業、サービスへの適合性
② 複数の機関から必要なデータ等を取得するうえで、フォーマットやインターフェース、品質管理が一様でなく苦労しているのではないか？	<ul style="list-style-type: none"> ■ 衛星、現場、モデルを含む必要なデータの汎用的なフォーマット、インターフェースでの一元的な提供 ■ 提供するデータに併せ品質管理情報も一元的に管理 	<ul style="list-style-type: none"> ■ フォーマット、インターフェースの適合性 ■ 品質情報に対する適正の評価

実証活動の実施時期

- 概念検討段階: WebGISの事業、サービスでの利用を実証(デモンストレーションやプロトタイプを活用)することで、具体的な利用を念頭においたコアサービスが提供する機能やプロダクト等への要件を具体化 → ①
- 設計・開発段階: フォーマットやインターフェースの適合性確認等を含め、事業でのオペレーショナルなコアサービスの利用における運用性を確認 → ②

海洋標準WebGISの特徴

コアサービス



海洋標準WebGISを利用したコアサービス活用で期待される効果

- 事業の高度化・高付加価値化
 - ✓ コアサービスで整備される海洋データを利用することによる事業の高度化、高付加価値化
- 定常的な作業の簡素化
 - ✓ 業務において定常的に行われるデータ選択、加工、表示におけるユーザーの作業負担を軽減、付加価値の創出等により多くのリソースを投入
- 成果公開等の標準化、再利用化
 - ✓ 海洋標準WebGISを利用したホームページ等の操作感が統一、公開可能なコンテンツはツールとして共有、複数のユーザーで再利用も可能

実証活動の進め方

海洋データ等を利用した業務を分析したうえで効果的なコアサービスの利用シナリオを作成、プロトタイプの利用も含めた実証活動による評価を行い、プロダクト要件ならびに機能要件として整理。
また、継続的にシナリオを充実、多様化してパートナーの拡大を図る。

